

とよなか 環境



ニュースレター

発行：NPO法人与よなか市民環境会議721
編集責任者：奥野 享
事務局：豊中市環境情報サロン内
〒561-0804 豊中市曾根南町1-4-3
Tel:06-6863-8792 Fax:06-6863-8734

この号のハイライト

P.1 環境展/P.2 タンポポ調査
/P.3 とよっぴー農園楽/P.4
～5 環境展、あいあいプロジェ
クト/P.6 省エネ学習会/P.7
とよなか市民環境会議/P.8 今
後のスケジュール

2011年(平成23年)春号 NO.34 (通巻第52号)

いよいよ進化しつつある とよなか市民環境展2010

センチュリー交響楽団も出演

12月10、11日に開催した今回の環境展は、参加者4132人で一年前より25%増。出展団体数も57団体で前回より7団体増えていました。

内容としても、市民文化祭でセンチュリー交響楽団のメンバーに出演してもらったりで、文化祭参加者は前回より倍増して1250人になり、結果として一段と充実したものにすることができました。



電気自動車に試乗できた



環境展の内容としては、電気自動車が展示だけでなく試乗にも力が入られ、3台も用意して大人にも子どもにも好評でした。年々省エネを考えた新しい車へと出展にも進化が見られました。

エコラボバスの発進

また、第2日目の朝には環境展を記念してエコラボバスのテープカットがありました。市民の足として便利な公共交通機関の路線が増えたことはうれしい限りですが、それが小型のコミュニティバスであることも、バス会社の環境への姿勢がうかがえました。



市民環境会議結成15年

3つのイベント

とよなか市民環境会議の結成とともに、私たちの運動がワーキンググループの名前で走りだして15年。

その運動をまとめた15年の歴史を出版するにあたり、佐藤徹さんの記念の講演会と講師を囲んでの懇談会、レセプションを行います。

とき 3月16日(金)

◆ 記念講演

15時から、豊中市民会館

講師 佐藤徹さんは結成当時は豊中市職員。環境問題で市民との協働の推進に奔走。現高崎経済大学準教授

◆ 佐藤さんを囲む懇談会

講演の後、別室で往時をふり返り少しの間歓談の時間をもちます。

◆ 記念レセプション

18時から 19時半

会費 3500円(書籍代を含む)

画期的だった市民と行政との協働をふり返り、歴史を一冊の本にまとめたことを記念に、当時の苦労を思い出し語り合いたいと思います。

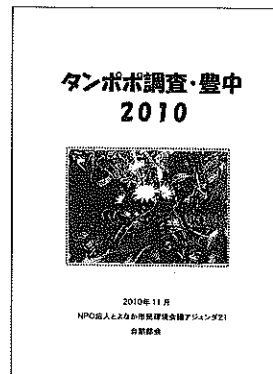


自然部会

豊中のタンポポ調査の結果がまとまりました

近畿圏を中心に、5年ごとに実施されているタンポポ調査に協力して、昨春、自然部会と刀根山高校の先生、生徒により豊中のタンポポ調査を行いました。今回は前回（2005年）と異なり、市民の皆さま方に広く呼びかけて、実施できなかったのは残念です。

その結果は11月に報告書にまとめて公表するとともに、12月の環境展でもパネルで展示しました。今回も、在来種（カンサイタンポポ、シロバナタンポポ）は、市内北部から中部東寄りにかけ多く生育しており、中心部から南部にかけては外来種（セイヨウタンポポ、アカミタンポポ、雑種）が優位であることに変わりはありませんでしたが、5年前に比較して、在来種が優位な地域（メッシュの数）がかなり増えていることが分かりました。しかし同時に、タンポポが見られる環境として、田んぼや畑の割合が大きく減少し、道端や分離帯が増えているという



結果からみても、在来種が優位な地域の数が増えたということが、一概に環境が改善された結果ということにはならないと思われます。

タンポポが語りかける環境の変化に耳を傾け、在来種がさらに広い地域で多くみられるような、緑豊かな豊中市にしたいものです。

（斎藤明）

◆タンポポ調査参加者の感想

この調査で驚いたことは、タンポポが交雑して「雑種」ができるということと、タンポポの種類の多さです。刀根山高校でもたくさん見られました。将来これらのタンポポがどう推移していくか知りたいものです。

（刀根山高校・生物工コ部）

自然学習講座「地域に残された自然に向き合って」

今年度第1回の自然学習講座は、11月27日中央公民館美術室にて表題のテーマで行いました。講師は少年時代を豊中で過ごし、現在は刀根山高校で教鞭をとる松本馨さんです。

まず少年時代の豊中各地で見られた生物を詳しくお話いただきましたが、今では豊中ではまったくなくなり、府下でも非常に珍しいもののオンパレー

ドで驚きの連続でした。

なかでも圧巻は現在の第十七中学（東泉丘）の場所にあったため池で、キクモ、ネジレモ、ミズオオバコ等の水草が20種以上、魚ではカワバタモロコも生息していたそうです。植物の中には、長期間種子で休眠して、刺激を受けると発芽するものもあるので、第十七中学の地下の泥を採取できれば復活できる種があるかもしれません。また池田市でのハイケボタルの発生状況やドブガイの保全状況など詳細に報告いただきました。

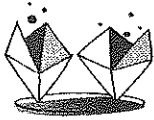
刀根山高校では、生物工コ部と環境委員会を指導され、隣接する里山の調査と保全活動に取り組まれています。そして豊中の絶滅危惧植物の増殖も手掛けられ、「生物多様性刀根山戦略」作成も視野に入れているそうです。

しっかり現状の記録をとどめ、地道に保全活動や環境教育に力を注いできたお話を十二分に伺うことができました。これからも自然部会の力強いパートナーであり続けて欲しいと思います。

（柿本修一）



刀根山高校内のアカマツ林

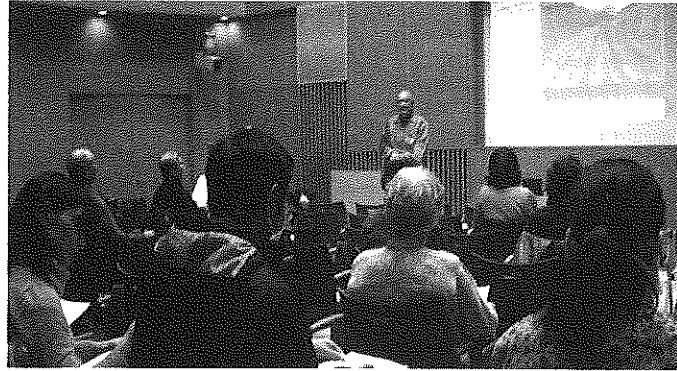


花と緑のネットワークとよなか

「楽しい春・夏野菜栽培」の講演会を開催

花と緑のネットワークでは、2月12日午後から生活情報センターくらしかんにおいて、「楽しい春・夏野菜栽培」と題する講演会を市民22人の参加のもと開催しました。これは定例の「家庭における生ごみの堆肥化講習と活動助成制度の受付」に併せて行ったものです。

いつもの堆肥化の説明と助成説明の後、「とよっぴー農園」の柳沢俊治園長による“春・夏野菜”の上手な育て方や、幾つかの注意点も含め話がされました。具体的には「とよっぴー」の紹介や、種・苗の選び方や有機肥料の活用と無機肥料の説明、土床づくりの開設



の後、野菜づくり方法を伝授しました。

参加者は、家庭菜園・市民農園・プランターでの栽培者がそれぞれ3割で、残りは少し大きめの貸し農園利用者でした。

柳澤農園長の独特のユーモアも交え、知っていそうで知らない類(わき芽)の取り方の話とか、ナス、スイカやカボチャの5本立てなどを丁寧に説明し、最後には、じゃが芋の植え方と種芋を配られ、大好評でした。柳澤さんによると、6月には「大きなじゃが芋が収穫できるでしょう」とのことでした。みなさん、満足な様子が印象的でした。
(中村義世)

「とよっぴー農園楽」を開校

花と緑のネットワークとよなかでは「豊中市緑と食品のリサイクルプラザ」(給食残渣類と剪定枝を混合)に併設して「とよっぴー農園」(約900㎡)を設け、市民の皆さんや子ども達(小学校・幼稚園など)を対象に、四季の野菜栽培やお米づくりを年間通じて行っています。

23年度も、子ども達に作物の大切さを学んでいただくことや、「親子で学ぶ畑の楽校」「市民収穫祭」「とよっぴー祭り」などのイベント開催に向けて、農園活用を予定しており、土づくりから野菜の植え付け、草取りや収穫など、作物栽培における農作業と農に関する勉強を兼ねて協力いただける方を募集することになりました。

今回は、開催期間中に約14回程度の座学も企画しており、農体験によるノウハウを得るとともに、理論なども学べる一石二鳥の企画です。

○期 間：2011年(平成23)年5月～11月までの7カ月間

○実施場所：豊中市緑と食品のリサイクルプラザ他

○内 容：農作業・座学(講義)・試食会・収穫祭など

○実施日等：毎週木曜日(週1回)の9:30～12:00まで

<座学の場合は2時間程度(別の曜日になります)「希望者のみ」>

○対 象：市内在住(在勤含む)作物栽培に興味があって、農作業の体力に自信があり、農に関する体験と学びを希望する方であれば可

○募集人員：10人以内(主催者でボランティア保険に加入)

○選 考：応募多数の場合は選考します。

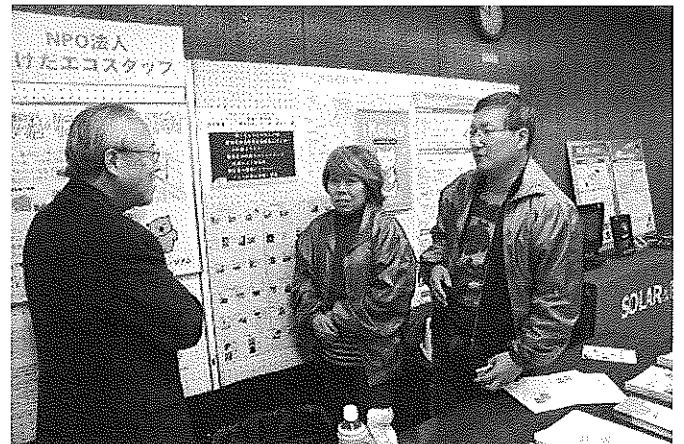


環境展2010

今回の環境展では、これまであまり光が当たっていませんでしたが、説明を読みこんだりし、話に耳を傾けていると学ぶことに発展した展示などがあり、興味の尽きない2日間でした。

「いけだエコスタッフ」に学ぶ

「いけだエコスタッフ」という名で私たちと同様にNPOとして活動しています。よく似ているのは池田駅から5分の商店街にある「市立3R推進センター・エコミュージアム」を活動拠点にしていることです。異なるのは、拠点でてんぷら油を集めたり空き瓶の回収、古本市やフリーマーケットの開催など非常に堅実に池田流エコ基金を積み立て、太陽光市民共同発電の設置を目指すなど、一步一步と運動が進められている



のが印象的でした。

これからも交流の機会を大切に、お互いにいろいろ学びあいたいと思いました。



省エネ相談会など「とよか」進呈

2日間にわたって行った温暖化対策プロジェクトの省エネ相談は68人の相談を受けた来場者があり、特に2日目は46人の相談者で大忙しでした。相談者には「とよか」200ポイントを進呈しましたが、その他にも昨年同様に使用済みてんぷら油を持ってこられた方が2日間で22人もあり、省エネ相談会と同じように、200ポイントずつの「とよか」を進呈しました。電車、バスなどの公共交通機関での来場者にも「とよか」をお渡しすることにしていましたが、PRの不足もあり残念ながら7人にとどまりました。

阪神ファンが喜ぶトイレトーパー

再生紙のトイレトーパーを展示するブースでは、阪神ファン向けに虎のマークなど絵模様をプリントしたトイレトーパーで、裁断する前の幅2mほどあるのが会場を目を引きました。阪神ファンの来場者が、「少しだけでいいからちょうだい」と、ロールをガラガラ廻して1メートルぐらいもらっていました。

あい・あいプロジェクト

あい・あいプロジェクトは、昨年6月に発足したばかりの新しいプロジェクト。20代の若者を中心に日頃から仕事や活動で「子ども」に関わることの多いメンバーで構成されています。月に一度の定例会では、メンバー同士の情報共有やイベントの企画、ふり返しを行っています。自然の中でさまざまな知識を得るだけでなく、命の大切さを実感したり、スタッフが子ども達ひとりひとりの気持ちに寄り添うことで、お互いの「心」を育む学び合いを目指しています。

今年度は、夏に野畑周辺で「身近な自然の友だちをみつけよう！」というイベントを開催し、地域の家族連れや大学生のボランティアスタッフがたくさん集まっ

てくれました。短い時間でしたが、スタッフがマンツーマンで子ども達と行動し、汗をかきながら一緒に生き物を見つける中で、お互いつながりあい、学び合うことができました。特別な場所ではなく、毎日通る道にもこんなにたくさんの生き物がいるのだということ。それに気づき、興味を持つことから、身近な自然を大切に思うことにつながってくれたらいいな～と感じています。普段は、なかなか自主イベントを開催できないので、メンバー個々に外部の講習会やイベントに参加して学んだことを持ち寄り、今後につなげる話し合いを重ねています。

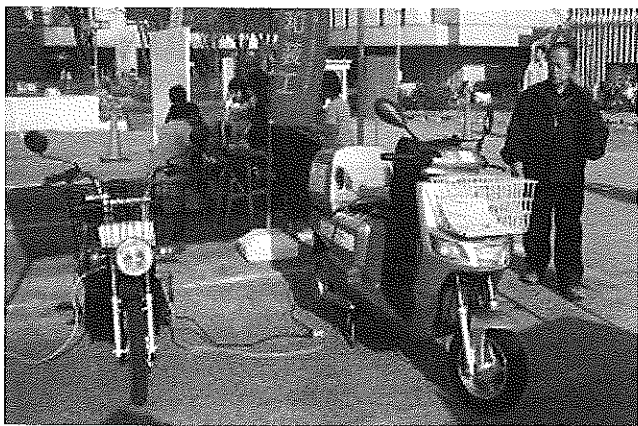
これからも、焦らずじっくり、行きつ戻りつしながら、自然環境の中で互いに成長できる「場」づくりを行っていきたいです。
(上村有里)

隅から隅まで

った展示などもあわせ、いろいろ見て回りました。ていねいの多いのに気づかされます。もちろん、昨年よりも格段

実用化に踏み出す電気のクルマ

昨年に続き小型電気自動車の展示がありました。今回は2日目に試乗できる車が3台も来ていて、すっかり人気を勝ち得ていたようです。CO2の排出量はガ



ソリン車に比べ70%削減できるというのが売り。すでにガソリンスタンドに代わる充電スタンドもあり、実用化に向けてさらに一歩踏み出したことが感じられました。

電気自動車とともに新しい時代を感じさせた展示は電動バイクです。昨年にも1台だけ来ていたのですが、今回は資料も揃えて本格的なお披露目。1回の充電費用は約30円で50~60km走れるのだそうです。

いつも人気の自然素材工作



自然部会で行った自然素材の工作コーナーは今回も大人気でした。リース作りでは27人の参加者があり、材料費100円でしたが用意した蔓の輪が全部なくなりました。またドングリのコマづくりも、材料費50円で、たくさんの子どもの参加がありました。工作コーナーを行ったのは10日だけでしたが、大賑わいで忙しい1日でした。

昨年に続いて、竹ポットにドングリの種をまき、未来の森づくりをしようという運動にも、60人の参加者がありました。

ゴミの発生抑制と再使用促進の署名

ホールで「容器包装リサイクル法を見直し発生抑制と再使用促進のための請願署名」が行われていたのも目につきました。私たちも5年前に取り組んだ署名運動の新版で、特に今年は発生抑制と再使用に力点が置かれた署名です。容器包装の3Rを進める全国ネットの呼びかけによるものですが、環境展としてもっと大きくPRして取り組むことができず残念でした。

環境とわたし

《28》 江藤なるみさん

花と緑のネットワークとよなか



導により、とよっぴーと共に今年で11年目です。

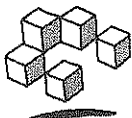
千里川の清掃、第14中学校PTAの人達との緑化作業、花いっぱい運動での地域の皆様とのコミュニティー等々、これからも環境と調和して、私に出来る地域参加で行動に繋げていきたいものです。「自然を大切な友として環境づくりを！」

3月には千里川の環境掲示板を更新します。自然を満喫にちょっとお立寄り下さい。

2月1日千里川を考える会、池田土木、業者と共に千里川生き物調査に参加しました。私にとって初めての経験でした。調査した内容はドンコ多数、ドンコの稚魚、ドジョウ、ザリガニ、カメ、オイカワ、ウシガエル、コイ9匹、ナマズなど多数生息していました。

生き物しらべに参加するようになったのは、母の介護が終わり空虚な日々、平成12年6月末頃に緑丘清谷池公園の花壇整備(市役所公園課の募集掲示)で参加したことによる出発点がありました。

また花と緑のプロジェクトの堆肥化実験も実施されていたので実験現場に出向きプロジェクトの皆様の指



生活部会

省エネの匠からたくさんのお話を聴く

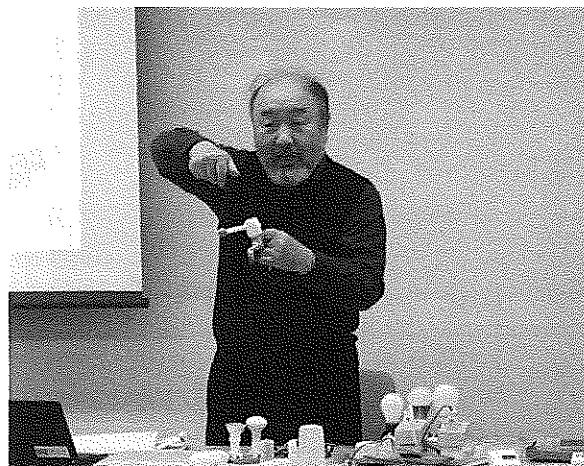
1月13日くらいでエコライフカレンダーに関連して学習会を行いました。参加者13人で〈省エネの匠が教えます、エコライフ〉と題した講師の山本和仁さん(省エネ普及ネット京都の事務局長)のお話を聞きました。話の後にもいろいろな質疑応答で、中身の濃くまた楽しい時間を持つことができました。

講師の山本さんは、省エネの小道具をこれでもかというほどたくさん抱えての出張です。小道具どこからきたら掃除機も用意してほしいとの注文もあり、それらの品を机の上いっぱい広げて話がはじまります。照明器具の消費電力比較から始まり、予想以上に大きいヘアドライヤーを温風強で使ったときのエネルギー消費の大きさなどがグラフと実物の実験で示されます。

意外なのは掃除機を〈強〉で使うときの消費電力で、それほど長時間使っていないので気にしていませんでしたが900ワットを超える電力の使用であることが説明されます。掃除機の使い方としては、吸いこみ口のところの回転により小さなほこりなどが舞い上がって吸い込まれるので、それをうまく使うと〈強〉でなくても十分に効果があることでした。

また、どこの家庭でもよくつかわれる電気製品の待機電力で注目を引いたのは、CDコンポが5.2ワット、電子レンジが4ワット、ビデオ(製品にもよるが)3ワットなどでした。待機電力を減らすことに改めて注意を喚起させられました。

最近のテレビでは、コンセントを抜かなくても省エネにできるメインスイッチがついていたり、必要以上に明るくしなくても省エネモードで映像を見るよう選択できることなど、いろいろないい話がいっぱい聞けました。(奥野)



竹炭プロジェクト投稿

間伐にことよせて

ここでいう間伐は竹伐りのことです。大根を間引くといいますが、竹はとても間引けないので鋸を引いて伐り倒す訳です。竹の場合は直径15cmをこえる太いものでも中は空洞ですからいさぎよく伐り倒すことができます。

新千里東町の千里中央公園の森林は旧勝尾寺街道筋にあたります。草樹ぼうぼう丘陵斜面30度近いところでの間伐は身体を支えるにも一苦労、誠に困難な作業となります。

また、新千里北町沿にある千里緑地、柿ノ木受配水場西隣の竹林一角と、更に南西の標高133m余の三角地点の側に広がる竹林での間伐作業を行っています。高さ15m余、節一筋の孟宗竹の群生林です。中でも昨春から作業に入った後者の竹林は、人の手が入らず自然のままに長い間放置されていた様子がありありと、うっそうとした竹林の奥は不気味な程暗く寂として静まりかえり鳥類の気配もなく自

然枯れした多くの竹が折り重なり行く手をふさぐ有様でした。それから1年余り毎月1回10数人の勤労によりさすがに様子は一変してきましたがまだまだの道程です。

枯竹、年期竹、曲竹、密集竹等を間伐の目安とする訳ですが「きらしてもらいますよ」と一声口ごもり左手で竹の芯を軽くたたいて鋸の歯を入れるのが私の習慣となっています。なぜかそのようにしてから間伐しています。竹は中が空洞となっており鋸屑にまぶれた切口に余韻を感じます。日本の昔話「かぐや姫」が頭をよぎるのは私だけでしょうか。

竹林整備には間伐をはじめ多岐多様な作業が関わります。何かと足手まといになりながら楽しく参加しています。

- ・鬱蒼と 来るものはばむ 折れし竹
- ・竹林に 響く笛の音 ティータイム

(笹部司郎)

とよなかエコ市民賞の受賞団体が決定しました

環境をよくする活動に自主的、積極的に取り組んでいる団体を表彰し、行動の輪を広げる「エコ市民賞」。創設して第4回目となる平成22年度（2010年度）は、4団体が選ばれました。

受賞団体



竹ポットにどんぐりを植える
(小学5年生)

服部緑地の自然を育てる会

「子どもたちが身近に生きものとふれあえる公園に！」
昭和30年代まではどこにでもあった自然を、服部緑地の自然学習ゾーン内に復元、保全活用を目的に活動しています。

ボーイスカウト豊中第17団

“花いっぱい運動ネットワーク”に参加し、清谷池公園で、子ども達を中心となって、花壇の掘り起こし、球根や苗の植付け、看板作りなどの活動を行っています。



花の苗の植付けの様子



サツマイモによる屋上緑化の試み

大阪府立刀根山高等学校 生物エコ部・環境委員会

高校の裏山を中心に、豊中市では希少となった植物や昆虫などの生物の調査、保存育成をおこなうほか、校内の緑化、屋上緑化やリサイクル運動に取り組んでいます。

株式会社阪急阪神百貨店 千里阪急

豊中市で営業活動を続けていくなかで、リサイクル活動、冷房温度の緩和、包装紙の簡素化など、積極的に取り組んでいます。



リサイクルBOX（屋外）


とよなか市民環境会議では、とよなかエコ市民賞を通して、環境活動の模範となる団体を表彰、紹介することにより、環境的に持続可能なまちづくりに向けた行動の輪が広がることをめざしています。


次回エコ市民賞は平成23年（2011年）夏頃募集する予定です。たくさんのご応募お待ちしております。


問 環境政策室 ☎06-6858-2128





スケジュールのお知らせ


 **結成15周年記念行事**
3月16日(水)
記念講演 15時~16時30分
懇談会 16時45分~17時30分
記念レセプション
18時~19時30分
豊中市立市民会館大集会室


 **写真による豊中の”むし”調べ
报告会と交流会**
3月19日(土) 13時30分~16時30分
豊中市生活情報センターくらしかん

 **機密書類リサイクル
参加企業(事業所)募集中**
4月25日(月) 11時~12時
豊中市伊丹市クリーンランド

 **アジェンダ総会**
6月21日(月) 午後(予定)
青年の家いぶき

 **竹きり体験 竹炭焼きと窯だし
(3月~6月)**
いずれか毎月実施します。 9時~12時
千里中央公園ほか 詳しくは事務局まで

 **おもちゃ病院(4月~6月)**
第2土曜日 10時~12時
環境情報サロン(受付は11時30分まで)

 **とよっぴー有料頒布(3月~6月)**
第2土曜日&第4水曜日 10時~11時
緑と食品のリサイクルプラザ

編集室から

▼この冬はむちゃくちゃに寒い。服を重ね着してゴロンゴロンに着ぶくれ。同様に着ぶくれした友人のいわく「私はおばあちゃんに育てられたから、いっぱい重ねて着るのがくせになってるんや」と。おかげで私も風邪は引かないが肩が凝って…。(Z)

▼わが家に小瓶の椿油がある。伊豆大島で買って、50年来使う機会の無かった宝物。今も黄金色に輝いて髪への保湿にはかかせない。大島で91歳の夫婦が椿の実を拾い油と交換して天ぷらやサラダを作り大家族で食卓を囲んでいる。豊かな油の香りが伝わってきます。(H)

▼昨年暮れ、大阪市内で市バスに乗車した時のことです。車内はかなり混んでいました。50代くらいの女性が、お席をどうぞ、と私に声をかけて立たれました。

一瞬、私は戸惑いましたが、折角のご好意と受け止め、丁寧にお礼を述べて席に坐らせてもらいました。ウン！気持ちは若いが容貌は老人なのだなあ、と思い知らされた出来事でした。(S)

▼大学時代に日本語を専門的に学んだことによって更にその深みに惹かれていった、京都・奈良寺社仏閣巡り。いつも誰に急かされる訳でもなく、のんびりひとりで歩きまわりながらも、つつい足は「縁結びの神様」がいらっしやる某神社へ…。(M)

▼娘と旅したイタリアは美術館巡りと世界遺産、映画で観た広場や大聖堂に感激。撮った写真は1000枚以上になりその整理も楽しみの一つに。ただトイレ事情は複雑で、ドライブインやレストランでも必ずしも便座があるわけではない。何で??? (P)

アジェンダ会員募集中

あなたも活動に参加しませんか？
アジェンダでは、さまざまな部会・プロジェクトで活動に参加するメンバーを募集しています。
<問い合わせ>

TEL: 6863-8792 事務局まで

《広報チーム》

Z奥野、H岡、S猪尾、Y小村、M森山、P大村、

<http://toyonaka-agenda21.jp/>

Eメール ecoshimin@kmd.biglobe.ne.jp